

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

260号



2023年6月25日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 羽田訴訟

訴訟については以下のようです。

* 次回進行協議（非公開です）

9月5日（火）14時～

騒音にまつわる主張の国からの反論について

* 弁論（傍聴できます）

10月24日（火）14時～

東京地裁 103号大法

原告適格、処分性（新ルート運用のための行政行為）の総括的意見陳述を予定しています。

* 先日景観を守る会の会員Iさんから、いつまでこの欄に羽田問題を続けるのかという意見がありました。他の人からも同様の意見（忠告？）を受けた事があります。他にもっと大事なことがあるだろうと言うのですが、常盤台が閑静で良好な住宅地としての環境を大事にするならば、この新航路の直下という設定こそ常盤台の重大な問題ではありませんか。騒音のみならず落下物の危険にさらされていることも、また、この航路が承認された際の非民主的なやり方についても忘れてはならないのです。この問題が解決するまで追求し続けます。

○ 明海大学の学生が調査に

劉一辰さんが明海大学の学生達を連れて再び常盤台の街並み調査にやって来るそうです。

私たちの街が研究者達の興味を引く存在であることを住民自身は十分に自覚しているでしょうか。それだけの価値が持続していきますように！

○ 常盤台景観ガイドライン 無視しようとする業者が

東京のしゃれた街並みづくり推進条例によって景観重点地区に指定されている常盤台1・2丁目ですが、最近景観ガイドラインを無視して建築しようとする例が3件ほど（1-39, 1-37番地など）出てきました。

ガイドラインを運営している「ときわ台しゃれ街協議会」は新たな対策を立てようとしています。全くの無報酬での活動に敬意を表し今後の活動に期待します。

○ 野鳥二題

ウグイスが

10日の朝、テレビからの声かと音を消して耳を澄ませました。確かにホーホケキョと鳴いています。公園の高いケヤキの上の方からあの小さな身体からは信じられない大きな良く通る鳴き声が聞こえてきます。

なんと翌日も朝7時ごろから鳴いていました。こんな時期に？こんな時間に？と不思議でしたが…今はもういません。

カワセミが

石神井川にカワセミがいることは何年も前から知られていましたが、姿を見た人はあまりいないようです。去年までは王子の方に下った所に巣を構えていたのですが、今年は引越して常盤台に一番近い向屋敷橋の傍に巣作りしました。野鳥の会っぽい人達が大きな望遠レンズを構えていたりするので直ぐ解ります。

今は抱卵中で六月下旬には雛の巣立ちが見られると思いますが、それまではできるだけ静かに見守って下さい。



常盤台に対する外部からの視点③

前回の視点②に続き、常盤台住宅地がどういった視点で論文に取り上げられているのか簡単にまとめていきます。

●常盤台の土地利用

土地利用は前回取り上げた「敷地変化」に非常に近いテーマです。上藺氏は常盤台と田園調布、成城の土地利用の詳細な分析をしています。1985年と2005年の土地利用のデータを比較しています。他二地域と実際の数値で比較し常盤台の住環境・景観を守る能力に対し辛口な評価をしています。また、外部の土地利用の変化も住環境・景観に対し大きな影響を及ぼしているとしています。

常盤台においては、他二地域より集合住宅と駐車場が多いです。駐車場が二地域より多いということは、住環境にとってどのような影響を与えるのでしょうか？あと二年で研究時のデータから二十年経ちます。2005年と比較し土地利用はどのように変化したでしょうか？調べてみてもよいかもしれません。

●景観保全

常盤台住宅地の住民は、様々な手法で住民主導の景観保全を（意図している、いないに関わらず）試みてきました。常盤台に関する論文のほとんどが、このテーマを主題としています。

常盤台初期の地域づくり、インフラの維持管理、公園の清掃、日常的な住空間の清掃、景観保全のためのルール作り、条例を利用した景観ガイドラインの作成など、常盤台の住民が行っている景観保全活動は多くあります。

これらの活動が実際の景観にどのような影響を及ぼしたのか。土地利用や敷地変化の数値の結果を元に考察する論文、常盤台住民へのインタビューや記録などから関係性を割り出し考察する論文などがあります。

日常的な景観・住環境の維持管理活動以外の景観保全活動は現在、一部の住民による活動としている論文は多く、（どのような外見の家を建てるか、規模などの）土地の権利に関わる問題の難しさが表れています。

●まとめ

常盤台住宅地に関する論文の視点について簡単ではありますが、まとめてきました。

まちづくりや景観保全に関して、常盤台を主題とする論文だけでなく、常盤台を事例の一つとして他の地域と比較する論文も多くあることから、常盤台の事例が他の地域の景観・住環境を維持・改善する知見になる可能性があるため取り上げられていると考えられます。

常盤台の成り立ちや景観に関する活動などが少しでも伝わったのなら幸いです。

最近では2003年（マンション景観問題があった）当初より「まちづくり」や「景観保全」活動に対して必要性や利益の感じにくい状況です。今の状態で活動を維持することは非常に困難なことです。このような中で今後常盤台が、「まちづくり」や「景観保全」について住民が活動し続けている街の事例として取り上げられるよう、私個人も小さな事からでも模索し続けたいと思います。

常盤台公園のはなづくり

五月三〇・三十一日あたりに咲き残りのピオラを差し上げたのと前々号に書いたのですが、雨続きの予報なので、急遽二八日にチューリップの球根掘上げと同時に小さな花束を二〇個ほど作りました。駅前で通行人に差し上げましたが、嬉しいと言って喜んでくれる人もいれば、無視する人、拒絶する人もいたのは意外でした。

いきなりちっぽけな花束を押しつけられたらびっくりするのは当然です。もう少し見栄えのするうちに摘み取って、道ばたにさりげなく置いておくなどの工夫をすることにします。公園の花としての最後のご奉公ともなるでしょう。

KAさん、KUさん、前野町のIさん達が頑張ってヤブカラシ退治をしました。四〇分程で大袋四つに一杯になりました。下になって日光を奪われていたツツジやシモツケソウがいかにもせいせいした感じで元気になりそうです。

アジサイの後がユリと思っていました。が、気候変動のせいかもしれません。咲いて散ってしまったものもあり、まだ蕾の固いものもありです。植物も戸惑っているのでしょうか。

サルビアの葉が無残に虫に食われています。腐葉土を撒いたせいでダンゴムシが大量に発生したようです。でも殺虫剤は使いたくありません。

